

京都大学の知にふれる

公開講座 春秋講義 令和2年度 春季講義

Kyoto University Public Lecture
"Shunju Kougii" Spring 2020

古典の世界

新元号「令和」は『万葉集』の梅花の歌、第三十二首の序文から考えられました。そして、『源氏物語』や『三国志』、シェイクスピア作品など、古典を題材にした映画や漫画は多数あり、それはゲームの世界にも広がっています。古典とは決して古びたものではなく、そこには現代の我々と同じ感情を持った人たちの物語が綴られています。物語を通して、古来の人びとの心に思いを馳せてみませんか。



『源氏物語』(紫式部著・山本春正編、慶安3年刊)
第5帖「若紫」
京都大学附属図書館所蔵

『演義三国志』巻第9 赤壁の戦い
京都大学文学研究科図書館所蔵

『三国志』と『三国志演義』

金 文京 名誉教授
中国古典小説・戯曲



現在ふつうに『三国志』とよばれる書物は、実は14世紀ごろに書かれた小説『三国志演義』のことで、『三国志』は3世紀の人、陳寿による歴史書です。邪馬台国で有名な「魏志倭人伝」は歴史書『三国志』の一部です。この講演では『三国志』、『三国志演義』、小説の翻訳である江戸時代の『通俗三国志』の一部を読むことで、歴史書から小説への変遷をたどり、それらが日本でどのように受け入れられたのかを考えてみたいと思います。

『源氏物語』を後代から読み直す

金光 桂子 文学研究科 教授
中古・中世の物語、和歌



『源氏物語』の古典たる所以は、長きにわたって多くの読者を獲得してきたばかりでなく、後代の文芸創作に大きな刺激を与え続けてきたことにあります。特に平安後期以降の物語作者たちは、『源氏物語』を模範と仰ぎ見る一方、時にそれを乗り越えようとする意欲を見せます。そうした物語作品における『源氏物語』受容の実態を見ることを通して、『源氏物語』の価値を考え直してみたいと思います。

シェイクスピアと古典 / 古典としてのシェイクスピア

廣田 篤彦 文学研究科 教授
英文学、シェイクスピア研究



ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の作品は、すでに400年以上多くの国で読まれ、上演されています。その意味では古典ということができるでしょう。しかし、シェイクスピア本人にとっての「古典」はもちろん別がありました。この講義では、まず、この劇作家が彼にとっての古典をどのように扱ったかを見てみます。次いで、シェイクスピアが古典と考えられるようになったきっかけについて考えてみたいと思います。

申込・配信期間 ご自宅よりインターネットで視聴いただけます。

令和3年1月13日(水) 9:00 ~ 令和3年3月26日(金) 17:00

京都大学春秋講義ホームページよりお申込後、ご登録のメールアドレスに視聴のためのURL等をお送りします

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open_course/season.html

問い合わせ先 京都大学総務部渉外課 TEL: 075-753-2606 (月曜日~金曜日 9:00-17:00)

E-mail: event@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp FAX: 075-753-2246 〒606-8501 京都市左京区吉田本町



京大 春秋講義

申込先

で検索

京大力、新輝点。



主催: 京都大学 後援: 京都府/京都市